京博ナビゲーター
活動記録

2014 → 2020
平成 26 年　令和 2 年

京都国立博物館

Kyo-haku
Navigator

2014
|
2020

もくじ

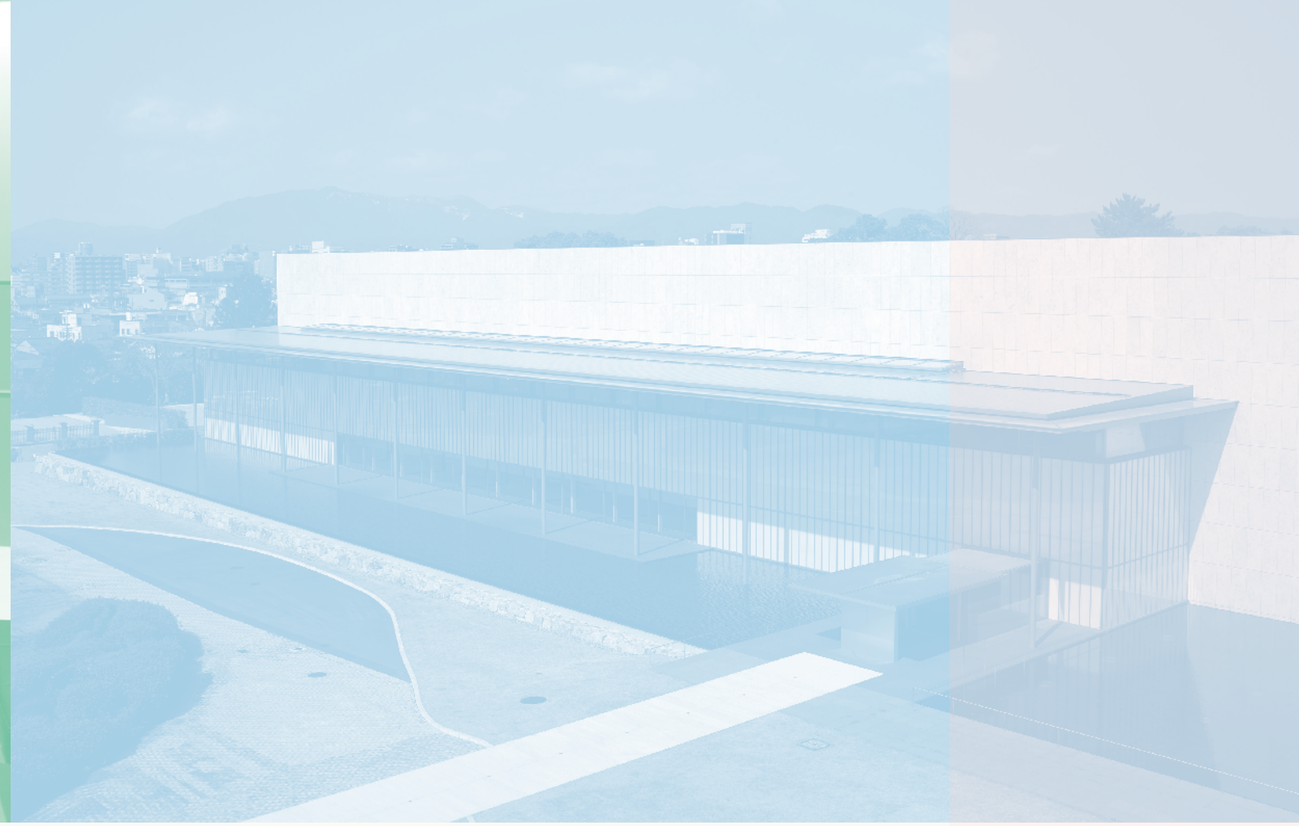
はじめに 1

京博ナビゲーターの基本情報 2
活動年表 3

ミュージアム・カートでのエピソード 4
考古の教材 4
彫刻の教材 6
絵画の教材 8
漆工の教材 9
期間限定の教材 10

ワークショップでのエピソード 13
琳派デザインに挑戦！ 13
“くじ”で出会う 禅のことば 13
龍馬さんからお手紙です！ 14
描いてみよう！墨の線 14
指で描こう！指墨画にチャレンジ 15
まぢかで見よう！はじめての刀 16
一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～ 17
顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のこころ～ 18

レファレンス・コーナーでのエピソード 19
とっておきのエピソード 博物館での出会い 20



はじめに

「京博ナビゲーター」は、京都国立博物館・平成知新館にて、文化財に親しむ入口を来館者に提供するためのボランティア活動です。平成 26 年（2014）、平成知新館のオープンとともに活動を開始しました。

この記録集は、第 1 期（平成 26 ～ 29 年）、第 2 期（平成 29 年～令和 2 年）の京博ナビゲーターの活動を記録し、紹介するものです。記録集の作成にあたり、第 2 期の京博ナビゲーターから、活動中の印象的なエピソードを寄せていただきました。それらのエピソードからは、来館者と京博ナビゲーターの生き生きとしたやりとりが伝わってきます。博物館で人は何を感じ、どんな影響を受け、何を持ち帰ることになったのか。すべてのエピソードが、それらを教えてくれる貴重な証言です。

令和 2 年（2020）、新型コロナウイルスの流行は博物館の活動にも大きな影響を与えました。博物館の存在意義を問う時、そこで起こった個別のエピソードの積み重ねは、入館者数だけでは計り知ることのできない、大きなヒントを示してくれると考えています。この記録集が、これからの博物館の在り方を考えるための、ささやかな助けとなれば幸いです。

京博ナビゲーターの基本情報

活動内容

京博ナビゲーターは、京都国立博物館の平成知新館で、
来館者に向けて次の４つの活動を行います。

1

館内各所のミュージアム・カートにて、来館者と交流しながら文化財の基礎知識を伝える

▶ p.4～12

2

特別展会期中のワークショップにて、特別展の魅力を紹介

▶ p.13～18

3

来館者からの各種質問への初期対応

4

館内における情報機材および参考図書資料の利用案内

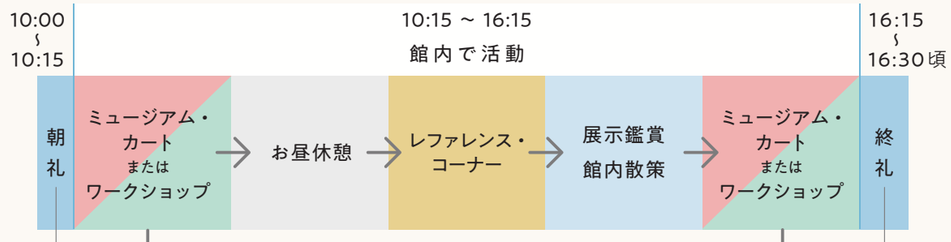
▶ p.19

京博ナビゲーターになるには

募集説明会に参加して**応募用紙を入手** → **応募用紙を送付**（応募者多数の場合は書類選考） → **面談選考** → **基礎講座**（４回すべてに参加） → **京博ナビゲーターに！**

１日の動き

京博ナビゲーターは、基本的に月１回、決まった週の決まった曜日に活動します（例：第３水曜日）。
１日の通常の活動人数は、第１期は７名、第２期は９名でした。



防災センターのスタッフが立ち会い、当日のイベント情報などを共有します。

シフトの一例。上記の活動内容を１時間ごとに担当します。

学芸部の研究員らが日替わりで立ち合い、嬉しかったこと、困ったこと、要望などを共有し、日誌に記入します。

運営

京都国立博物館学芸部と、総務課の協力のもと、学芸部教育室が次の業務を担当しています。

- 京博ナビゲーターの募集・選考
- 基礎講座や研修の実施
- シフト管理
- カート教材の作成・メンテナンス
- ワークショップの企画・必要物品や資料の用意

活動年表

※「WS」は「ワークショップ」を表す

	博物館の動き	京博ナビゲーターの活動
H24 2012	教育室発足（４月） ボランティア検討開始	
H25 2013	他館調査・教材制作・運営準備	
H26 2014	第１期　募集説明会（６月） 第１期　書類選考・面談（７月） 第１期　基礎講座４回（８・９月） 平成知新館 開館（９月13日）	第１期 京博ナビゲーター 活動開始　193名（2014年９月13日） カートにて活動 ▶ p.4～12 （2014年９月～2015年８月）
H27 2015	第１期　感謝会（６月） 第１期　琳派ＷＳ研修（９月）	琳派展ＷＳ（2015年10・11月） ▶ p.13 カートにて活動（2015年12月～2016年３月）
H28 2016	第１期　禅ＷＳ研修（３月） 第１期　感謝会（６月） 第１期　龍馬ＷＳ研修（10月）	禅展ＷＳ（2016年４・５月） ▶ p.13 カートにて活動（2016年６～10月） 龍馬展ＷＳ（2016年10・11月） ▶ p.14
H29 2017	第２期　募集説明会（３月） 第１期　友松ＷＳ研修（３・４月） 第２期　書類選考・面談（５月） 第１期　卒業式（６月） 第２期　基礎講座４回（６月） 第２期　国宝カート研修（９月）	カートにて活動（2016年12月～2017年３月） 友松展ＷＳ（2017年４・５月） ▶ p.14 カートにて活動（2017年６月） 活動終了 137名（2017年６月末） 第２期 京博ナビゲーター 活動開始 208名（2017年７月１日） カートにて活動（2017年７～９月） 国宝展カートにて活動（2017年10～11月） カートにて活動（2017年12月～2018年３月）
H30 2018	第２期　大雅ＷＳ研修（３月） 第２期　感謝会（６月） 第２期　かたなＷＳ研修（９月）	大雅展ＷＳ（2018年４・５月） ▶ p.15 カートにて活動（2018年６月～９月） かたな展ＷＳ（2018年９～11月） ▶ p.16 カートにて活動（2018年12月～2019年３月）
H31 R1 2019	第２期　時宗ＷＳ研修（３月） 第２期　感謝会（７月） 第２期　歌仙ＷＳ研修（９月）	時宗展ＷＳ（2019年４～６月） ▶ p.17 カートにて活動（2019年７月～９月） 歌仙展ＷＳ（2019年10～11月） ▶ p.18
R2 2020	新型コロナ対策（２月中旬～） 第２期　三十三所ＷＳ研修（３月） 第３期　募集説明会（４月）中止 第３期　募集説明の資料配布（４月） 第３期　書類選考・面談（５月）中止 第２期　卒業式（６月）中止 本活動記録の作成	カートにて活動（１月～２月） カート活動（２月末～）中止 三十三所ＷＳ（７～９月）中止 ▶ p.18 本活動記録のエピソード執筆（８月） 活動終了 198名（９月末）

ミュージアム・カートでのエピソード

京博ナビゲーターが活動する「ミュージアム・カート」には、さまざまなハンズ・オン教材が入っています。
制作にあたっては、文化財修理や複製制作、伝統工芸に携わる工房や職人の協力を得ました。
カートでは、京博ナビゲーターとお話しながら、子どもから大人まで、楽しく文化財に親しむことができます。
京博ナビゲーターから寄せられた数々のエピソードをご紹介します。

episode
エピソード

流水文銅鐸（複製）

自転車一人旅のオランダ人男性が、銅鐸カートに来て下さいました。銅鐸の用途や作り方、その変遷などをご説明したところ、たくさんの質問をして下さり、私も予習で得た知識をすべて出すことができました。
銅鐸を通して、当時の日本の技術、生活、生き物にまで話が広がり、とても楽しい時間となりました。 **T.K.**

博物館に来る大阪のおばちゃんたちは陽気で元気です。ある日の銅鐸コーナーで文様等の説明後、おばちゃんの一人に「重いので気をつけて」と複製銅鐸を持ってもらうと「う～ん」と思い切り重い動作をしてくれました。
お友達共々レプリカの本当の重さがわかると全員で大笑い。乗りやすいお客様との楽しい一時でした。 **B.H.**

考古の教材

考古のカートには、当館所蔵の青銅器の精細な樹脂製レプリカや、復元鋳造が用意されています。

流水文銅鐸（複製）

樹脂製の複製。展示室では見られない裏側の様子も観察できます。

原品：
重要美術品「流水文銅鐸」弥生時代（紀元前１世紀頃）、京都府与謝郡与謝野町明石出土、当館蔵

銅剣・銅戈（複製）

樹脂製の複製。表面の細かな擦跡まで確認することができます。

原品：
「銅剣」弥生時代（紀元前１世紀頃）、当館蔵／「銅戈」弥生時代（紀元前１世紀頃）

三角縁神獣鏡
（復元鋳造）

手に取って鏡面に自分の顔を映したり、細かな文様を確認することができます。

原品：
重要文化財「三角縁複波文帯三神三獣鏡」古墳時代（３～４世紀）、愛知県犬山市東之宮古墳出土、当館蔵

活動当初、お客様に銅鐸を触って頂きながら対話をしていましたが、その方と大変話が弾みもっと勉強したいと思いました。
そこで日本最大の「袈裟襷文銅鐸（複製）」が展示されている野洲の銅鐸博物館を訪ね、更にその実物を見たくなり東博に赴きました。あまりにも大きく立派な銅鐸を目にして、圧倒され感動したことが心に残っています。 **S.Y.**

その人は怒っていた。憧れの泉屋博古館の所在を、博古館の近所の人が知らなかった事に。口惜しく、悲しい思いを抱いて来られたのである。
カートの流水文銅鐸を手に取って頂いて、青銅器の美しさ、精妙さについて語り合った。最後に「京博に来て良かった」と、去って行かれた。心が響き合う喜びを教えて下さった方であった。 **T.Y.**

3階カートは銅鏡が新たに配備されてから一段と充実した。三角縁神獣鏡といえば「卑弥呼の鏡」とのイメージを多くの来館者は持っておられる。複製品の縁を触り神と獣の文様を現認することでこの銅鏡の呼称を理解し、さらに展示室に行けば本物に出会える。三角縁神獣鏡のことがよく分かったと喜んでくださる方は多かった。 **古野 敏**

考古のカートに一人の男性が来られ、わたしの説明を聞きながら、熱心に銅鏡を観ておられました。途中で泉屋博古館の方だとわかり、拙い説明が恥ずかしかったのですが、その方は銅鏡のレプリカがとても良くできていることや、銅・錫・鉛の微妙な配合率のことなどいろいろ話して下さり、お話するのが楽しく勉強にもなりました。 **U.Y.**

「50年ぶりに疑問が解決しました！」銅鏡を説明していた時の事。ピカピカの銅鏡に驚き、鏡と呼ばれる所以に納得、斬新な体験型の説明にも感銘、館内を再度鑑賞し感動を新たにしたとわざわざお礼と報告に来て下さった男性。
「貴女に説明してもらえて幸せでした」のお言葉に私がハッピーになりました。 **Y.M.**

子年の初め私の考古担当時間に目の御不自由な夫妻が来られたので、理解いただけるか不安ながらお客様の手を銅鏡の神像に触れて貰ったら「わかる、わかる」明るくて大きな声で笑みを浮かべてくださり、木綿の手袋を着け指先で物の形を理解される凄い能力に驚かされました。
他の文様にも納得し満足げに帰られる後姿が印象的でした。 **I.K.**

考古カート・銅鏡に来られた女性。三角縁と三神三獣について説明すると、「昔呪文みたいに覚えたけど、そういうことか！」と反応。「教科書ではどこが鏡か分かりませんよね」と言いつつ鏡面をお見せすると、さらに「こっちが鏡か！」と盛り上がりました。
お客様が日常で知っていることに結び付けて話す楽しさを感じました。 **三浦 ささと**

特に印象に残っているのが三角縁神獣鏡です。銅鏡のすばらしさを説明した後、実際に手に持って、縁の三角形や、三神、三獣、複波文 etc. に触れていただきました。特に中年女性の方が、鏡面に映る自分の若い？美しい？高貴なお方？の顔にうっとりしたり、驚いたり、喜んだりして非常に盛り上がったことが、記憶に残っています。 **N.M.**

3階の銅鏡。10人程度の中高生集団で順次体験。「こんなにきれい」「表裏を知らなかった」と感想を言って展示室に入室。説明解かったかなと思っていると、引率先生２名が戻って「生徒が興味を持っているので体験します」と。
説明しているときは「？」だったが、興味を持ってくれて嬉しかった。再開時はまたチャレンジしたい。 **天野 敬文**

episode
エピソード

三角縁神獣鏡
（復元鋳造）

ミュージアム・カートでのエピソード

彫刻の教材

彫刻のカートには、仏像の制作技法や
構造を知るための教材が用意されています。

玉眼模型（如来）

仏像の玉眼の構造を知るための、仏像の頭部の模型。自分で玉眼を嵌めることで構造を理解できます。

玉眼模型（天部）

仏像の玉眼の構造に加え、「割矧造」と「寄木造」の技法も盛り込んだ模型。自分で組み立てることができます。

衣文模型

平安前期の仏像に特徴的な翻波式の衣文と、平安後期、定朝様の衣文の模型。触って違いを確かめることができます。

木材見本

仏像や工芸作品等に使われる木材８種類を集めたもの。重さや質感だけでなく、香りも確認することができます。

episode エピソード 衣文模型

２階カートの「衣文」教材を担当していた時、女性のお客様が「仏像の衣のしわをこんなにじっくり見たことがなかったです。もう一度１階の仏像を見てきます」と言って去っていかれました。

しばらく経ってわざわざ戻って来られて「仏像の衣のしわだけでもめっちゃ楽しめました」とお礼をいただいた時はとても嬉しかったです。

鈴木 敏博

「これなあに」と幼な声。「衣文の見本ですよ」と私。途惑う女の子に保護者が「おばあさんが着物脱いだら棒に通さはりまっしゃろ」と衣紋掛を説明。

「エモンはネ、元は“衣紋”と書いて装束着付を言うたけど着物やその襞、襟元も指すの。絵や彫刻では“衣文”と書いてドレープのことなの」「へえー。何で一杯意味や字があるの。調べてみよっ」と怜人に遇う。

伊世 幸男

玉眼模型の写真提供：美術院

episode エピソード 玉眼模型

夕方近くだったかと思います。小学生の女の子とお母さんに玉眼の解説をしました。その女の子がとても印象的で、口数は少ないのだけど、目がとても生き生きしていて好奇心いっぱいで楽しんでくれているのが伝わってきました。

お母さんの話では、以前も京博ナビの話を聞いて面白かったとのこと。ナビ冥利につきますね。

山田 誠二

「玉眼」のカートで、立ち寄ってくれた若者達、外国からの親子連れ、ともに玉眼の取り外し・組み立てを体験して大満足の様子。

でも私にとって何よりも嬉しい驚きだったのは、しばらくしてそれぞれの人達が「観てきたよ！よく解った！すごかった！」と、感動の報告に戻って来てくれた事。忘れられない思い出の一つでした。

齋藤 徹

カートへのお客様方は海外の方も含め玉眼に興味を持たれます。小さなお子さんは特に興味津々。小学生のお子さんには「夏休みの自由研究にどうですか？」と声をかけると喜んでいただけました。

おかあさんが写真担当で熱心にメモを書くお子さんもいました。完成した仏頭との記念撮影に応じるお客様も多く微笑ましかったです。

M.Y.

活動初期の頃、男子中学生に玉眼の説明をした時の事。退屈そうに話を聞きながら玉眼をはめ込むと、サッサと階段を降りて行った。

説明の仕方が悪かったかしら？と、反省していると「玉眼の仏像を見てきた！」と、友人も連れて戻ってきた。その後、如来を挟んで会話が弾んだが、その時の少年達の笑顔は、大変印象に残っている。

O.K.

玉眼のコーナーをナビ二人で担当。「お釈迦様はインドの王子様」と、相棒のナビさんが熱心に解説されてました！どこかで見たお顔も遠くから覗かれてます。

帰宅してから、ご先祖様の墓のあるお寺の普段着の和尚様と判明。これぞ“釈迦に説法”。ダンディなスタイルで時々博物館にお越しになっているようです。

服部 温子

ナビゲーター２年目、NHK・Eテレ「趣味どきっ！国宝に会いに行く」の収録で、永青文庫副館長の橋本麻里氏と俳優のマキタスポーツ氏のお二人を前に「玉眼・衣文」模型の実演をしました。

後日、番組を見た母娘が来館し、時間の許す限りお話しながら実際に手に触れ、楽しんでいただきました。とても感激されていました。

N.H.

ミュージアム・カート でのエピソード

絵画 の教材

絵画のカートには、絵具・墨・和紙の原料や、絵を描くための筆、絵巻の複製などが用意されています。

絵具

日本の絵画に使われる絵具とその原料。どんな原料から絵具が作られるのか、どんな質感なのか、確かめることができます。

墨・墨原料

墨と、墨の原料、制作工程で使用する型の見本です。墨がどのように作られ、どのように使うのか、知ることができます。

和紙・和紙原料

文化財の修復等に使われる和紙と、その原料の見本です。触って、質感の違いを確認することができます。

絵筆（復刻版）

江戸時代の絵道具箱（※）に収められている絵筆をもとに復刻した筆。水で描ける用紙に実際に描いてみることで、筆遣いの面白さや難しさを体験できます。

※「唐子蒔絵象嵌絵道具箱」（江戸時代、18 世紀、京都・霊鑑寺蔵）

絵巻

「鳥獣人物戯画 甲巻」の原寸大複製です。実際に巻き広げながら、手元で鑑賞することができます。

原本：国宝「鳥獣人物戯画 甲巻」（平安時代、12 世紀、京都・高山寺蔵）

episode
エピソード

絵画

中国の陝西省西安市（昔の長安）の博物館の研究員の方がカートに立ち寄り、岩絵の具の材料のうち三千本膠を見て、「敦煌などの遺跡の修復にこの日本製の三千本膠を使っているよ」と言っていたのが今でも鮮明に記憶に残っています。 **S.T.**

鳥獣人物戯画見本。小学低学年の男の子が、肩幅分程に開かれた絵を覗き込む。蛙や兎を見つけて嬉しそう。絵巻の両端を持つよう、カートの反対側から私の手を伸ばし小さな手に重ねる。いっしょに巻き取り操作をする。繰り返すと絵の場面が出て来る。

夢中になった彼の肩越しには両親が居て、家族３人で中国語のお話を創っていた。 **O.E.**

親戚が北陸で紙を漉いていて、幼時によく眺めたという女性。和紙の話で盛り上がるうち雁皮の栽培で意見が分かれた。彼女はできないというが、私は島根県で成功したと記憶。「記憶違いですかねえ」とおさめたが、家でパソコンを開くと農園での成功事例が。ほっとした。その時ふと、彼女も家でパソコンを見たかな、と思った。 **村上 隆**

カートの中には「？（ハテナ）」が一杯です。地味な存在の墨ですが、材料は？作り方は？と質問し、ご説明すると「そんな作り方なんですね」と納得され、香料を臭ってもらうと「これ墨やわ」と意外と驚かれました。

文化財には必需品であり、昔は身近にあった道具も“伝えていく”ということが必要になるんだと感じました。 **宮澤 佳代**

東南アジアの留学生仲間がカートに立ち寄り、「日本文化を紹介する授業があるので何か参考になるものはないかと思い京博に来ました」との事。

墨の作り方や仏像のお顔などを紹介すると、「ここには本物の教材がいっぱい！」と触れる教材や資料等をスマホに撮り、流暢な日本語で「ありがとうございました」と喜んでもらえました。 **T.S.**

漆工 の教材

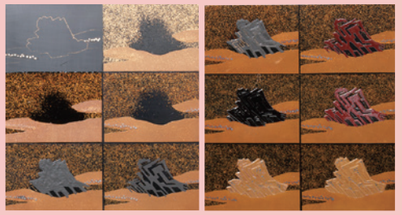
漆工に関する教材は、平成 29 年（2017）７月より登場しました。蒔絵と螺鈿の見本や、螺鈿の材料が用意されています。

蒔絵と螺鈿の工程見本

漆工の代表的な技法の手順を示したもの。技法ごとに、完成までの手順を詳しく見ることができます。また、手で触れて凹凸を肌で感じたり、マイクロスコープを使って拡大し、細かな部分まで見ることができます。

螺鈿・平蒔絵

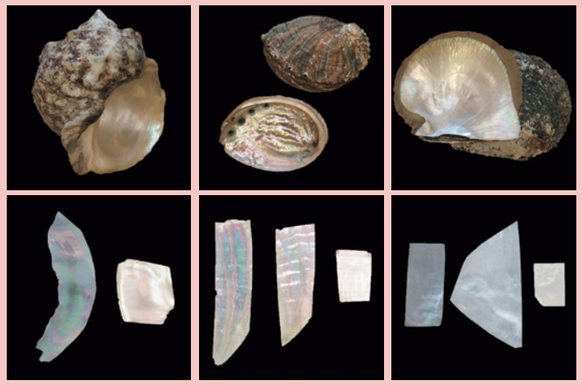
金貝・梨地・高蒔絵



高蒔絵・梨地・金地・切金

螺鈿の材料

螺鈿という技法に使われる、貝殻を薄く加工した材料や、もとの貝殻の見本です。



夜光貝の貝殻、加工した材料

鮑の貝殻、加工した材料

白蝶貝の貝殻、加工した材料

ミュージアム・カートでのエピソード

期間限定の教材

国宝展

「開館 120 周年記念　特別展覧会　国宝」（2017年10月3日～11月26日）に合わせて、カートに特別版の教材が登場しました。

桜ヶ丘銅鐸（復元鋳造）

桜ヶ丘遺跡から出土した銅鐸の復元鋳造です。金色に輝く制作当時の色や、文様の細かい部分を間近に観察できます。また、実際に鳴らしたり、重さを確かめたりできます。

原品：
国宝「銅鐸（5号）」弥生時代中期（紀元前2～前1世紀）、兵庫県神戸市桜ヶ丘遺跡出土、神戸市立博物館蔵

金印（複製）

金印の複製と、その本来の使い方を体験するためのセットです。竹簡や粘土などを使って「封泥」の体験をすることができます。

原品：
国宝「金印」弥生時代（1世紀）、福岡市東区志賀島出土、福岡市博物館蔵

貝合わせ

特集展示「京博すいぞくかん」（2017年7月25日～9月3日）、特集展示「雛まつりと人形」（2018年2月20日～3月18日）に合わせて、カートに貝合わせが登場しました。

貝合わせのセット

内側に絵が描かれたハマグリの貝殻を使って、実際に「貝合わせ（貝覆い）」の遊びを体験できます。

根付（複製）

新春特集陳列「さるづくし―干支を愛でる―」（2015年12月15日～2016年1月24日）、新春特集展示「子づくし―干支を愛でる―」（2020年1月2日～2月2日）に合わせて、カートに根付のセットが登場しました。

根付セット～さるづくしバージョン～（複製）A～E

帯（マジックテープ式）を腰に巻いて、根付の使い方を実際に体験することができます。

根付の拡大版～さるづくしバージョン～F・G・H

根付や緒締を、3Dプリンタで拡大して出力したものです。肉眼では見えづらい、細かな彫りまで確認することができます。

F 2倍サイズ

G 6倍サイズ

H 2倍サイズ

原品：
A・F「猿回し根付」旭斎作、江戸～明治時代（19～20世紀）、当館蔵
B・G「三猿緒締」懐玉斎正次作、江戸～明治時代（19世紀）、当館蔵
C「梅花堆朱印籠」、当館蔵
D・H「猿根付」二代正直作、明治時代（19～20世紀）、当館蔵
E「瓢箪猿根付」尾崎谷斎作、幕末～明治時代（19世紀）、当館蔵

episode エピソード 国宝展

2017年特別展覧会「国宝」での桜ヶ丘銅鐸（復元鋳造）を前にしての出来事でした。一人の来館者から青銅の本来の色、薄く鋳造する方法、銅鐸の最大寸法、等々矢継早に質問を受けました。

私の説明が終わると、来館者から「私は社会科の教師です。今日は、大変勉強になりました」との一言と、笑み。　杉山 圭吾

国宝展開催中のことです。数人の女子高生がカートで金印の説明を聞いていたので、「これを送ったと書いてある古文書が3階にありますよ」とお知らせすると、急いで階段を上がって行きました。

しばらくして「観てきました！感動しました！」とわざわざ言いに来てくれた彼女たちの目の輝きを忘れることはありません。　N.Y.

国宝展に来られた母娘さんから「私たちの住む宮崎県には国宝がありません。一生に一度国宝を見たいと3泊4日で京都に来ました」と伺い、国宝のない県があることを初めて知りました。

おふたりは国宝展に感動され、目に涙を浮かべてお話しされました。国宝展は、娘さんから高齢のお母様への最高のプレゼントになりました。　曽根 恭子

ナビになって最初の特別展は「国宝展」でカートでの一番人気は「金印」。職員さんお手製の竹簡と封泥を用いての説明は大盛況で息つく暇もない。

誰もが知る金印の、ほとんどの人が知らないその大きさ・用途に、へー、ほぉーの声、横合いから驚嘆にする人もあり。最小にして最強？の国宝との、忘れられない出会いでした。　西田 恵子

国宝展で車椅子の年配の女性に仁和寺の小さな薬師如来さまをご案内したことです。薬師如来さまとガラスにうつった金剛寺の大日如来さまのツーショットをみていただき、とっても喜んでいただきました。私にはとっておきの思い出です。滅多にない、展示室での来館者とのふれあいでした。　S.T.

竹簡のカートをお客様が幾重にも囲みました。最前列の児童に補助を依頼、快諾。後ろのお客様にも竹簡が見える様に掲げるお役目です。ナビの私が竹簡を示し実演対話役。児童は掲げる高さを確認しつつ実演を見ています。

大人のお客様には麻紐結びに参加頂き、最後の封泥は掲げ役の児童に…まわりのお客様も、笑顔で楽しそう。　後藤 京子

国宝展の活動日に銅鐸ファンのお客様と対話する機会がありました。その方は他の博物館にも銅鐸鑑賞によく行くこと、今回お気に入りの桜ヶ丘銅鐸が多くの作品と共に美しく展示され輝いて見えること、など銅鐸愛溢れるお話を素敵な笑顔でされ印象的でした。古美術を愛する方達に作品は支えられていると感じた時間でした。　I.Y.

episode エピソード 貝合わせ

貝合わせがカートに出ていた時です。小学生の兄妹が挑戦しました。妹は手当たり次第に貝を取り始めました。「模様を良く見てね」と声をかけると、じっくりと見て、貝の模様の違いが分かる様になりました。内側の絵も答えた時の笑顔が素敵でした。

美術品や来館者と身近に触れ合えるナビゲーターは私には良い経験でした。　Y.T.

「貝合わせ？神経衰弱のようなものでしょ？」そうおっしゃっていたお客様が、体験後に、「こんな遊びだったとは！優雅でゆったりとした時代だったのですね」と、目を輝かせておっしゃった。嬉しかった。

貝の模様が濃淡・線幅様々で、小さなお子さんにも大人の方にも楽しんでいただけたのも良い思い出。　野呂 和子

episode エピソード 根付（複製）

支援学校の先生と生徒さんが根付のカートに立ち寄られたときのこと。少年たちは帯や根付を付けてもらって、少し戸惑いつつも嬉しそうでした。

「博物館は観るだけだと思ってましたけど、触ったり体験したりできる所があって良かったです」そばで見ておられた先生の言葉に、改めてナビゲーターの意義を実感しました。　N.H.

ミュージアム・カート でのエピソード

期間限定の教材

行堂面 王舞（複製）

特集陳列「日本の仮面 人と神仏、鬼の多彩な表情」（2015年6月9日～7月20日）に合わせてカートに登場しました。面をつけるとどれくらいの視界なのか、どんな感じがするのか、実際に試すことができます。

鮫皮・刀の柄

特集展示 京都水族館連携企画「京博すいぞくかん―どんなおさかないるのかな？」（2017年7月25日～9月3日）に合わせてカートに登場しました。工芸に使われる鮫皮（エイの皮）と、鮫皮の巻かれた刀の柄です。実際に触れて、質感や使い心地を確かめることができます。

「謎ときにチャレンジ！」クイズシート

特集展示「謎とき美術！最初の一歩」（2018年7月21日～9月2日）に合わせて、4ヶ国語のクイズシートを展示室に設置しました。京博ナビゲーターが答えあわせとお話をして、正解者には記念のエンボススタンプを捺しました。

ワークシート「赤ってじつはどんな色？」赤色の絵具・染料見本

特集展示「赤ってじつはどんな色？」（2019年7月2日～8月12日）に合わせて、4ヶ国語のワークシートを展示室に設置しました。京博ナビゲーターが答えあわせとお話をして、記念のエンボススタンプを捺しました。カートには、赤色の絵具や染料の見本を用意しました。

episode エピソード ミュージアム・カート

来館者がカートの教材をじっくり見たり、触ってみたり、さらに対話のなかで興味が湧き、もう一度見てくるなど、よい反応が多いのが印象的だった。

自分に専門的な知識があるわけではないが、事前に配布される虎の巻などを読んで、「相手によって対話の内容を組み立てよう、展示品についてもう少し知ろう」という意欲がわいた。 **N.S.**

学齢期前後の子供二人を連れた、深圳の学芸員だという女性がカートに来ました。中国語の資料と私の補足を丁寧に子供に伝えていました。

「日本は教育に関する施設が充実しているので、経験させようと旅行している」とのこと。子供の将来をグローバルに考え、できることを実践する姿に驚きました。 **鳴 啓子**

入館したその足でカートを目指してお越しになり、声を弾ませ「とても面白いしここに来るだけで夏休みの自由研究が完成するって聞きました！」と仰る親子連れのお客様。その期待には面喰いつつも、博物館＆ナビゲーターからお客様・さらにその先の博物館を訪れたことのない方々との繋がりまでをも感じることが出来た瞬間でした。 **T.Y.**

名品ギャラリー期間中でのナビ活動は来館者ともゆっくりお話しできました。中でも80歳は過ぎておられる白髪のご婦人が忘れられません。その方は京博の土曜講座で継続して学んでおられるようで、その事を教えて下さる少女のように輝いた瞳には、生涯学び続けることの素晴らしさも教えていただきました。 **I.M.**

「さわる・はなす」に「撮る」が加わると濃い体験ができます。レプリカを持った普通のポーズから、銅鏡の鏡面に映ったお顔をパシャッ‼更にはカップルのチークトゥチークをパシャッ‼若い方や外国の方はのります。開いたまま持ち上げられない巻物はカートに頬杖ついてニッコリ！うけます。 **平野 美榮子**

一番記憶しているのは、中国人観光客の方が「ナビの教材は売ってないか」と質問された際に、ご自分の携帯電話から日本語のわかる方に通訳を依頼され、その方を通してお話しをした事です。どの教材も魅力的な物ばかりだったので欲しくなるのでしょうね。その時は教育室に連絡して、説明に来ていただきご納得いただきました。 **W.T.**

ワークショップ でのエピソード

特別展の期間中、京博ナビゲーターは「ワークショップ」を担当します。ワークショップは、子どもから大人まで、だれでも参加可能。手を動かしたり、ナビゲーターとお話したりしながら、展示作品や展覧会への理解を深めることができます。

プログラム

琳派デザインに挑戦！

参加者数 15,841人

特別展覧会「琳派 京を彩る」（2015年10月10日～11月23日）に合わせて実施しました。俵屋宗達や尾形光琳の作品を元にしたスタンプを使い、オリジナルの扇面や団扇をデザインするワークショップです。

琳派作品の構図によく見られる「くり返す」「はみ出す」「余白をとる」「ジグザグに置く」という4つの技に注目し、作品の写真を見せながら、京博ナビゲーターがお話します。その後、スタンプを使ってデザインの体験をしました。

同じ文様のスタンプでも、構図が違うと雰囲気がガラリと変わります。琳派の絵師の作品をヒントに、たくさんの来館者が素敵な扇面と団扇のデザインを作成しました。

“くじ”で出会う禅のことば

参加者数 11,547人

特別展覧会「禅―心をかたちに―」（2016年4月12日～5月22日）に合わせて実施しました。出品作品に関連のある禅語のくじを引き、書写をすることで、禅の世界に触れるワークショップです。言葉の意味を想像しながら書写をした後に、その意味や作品との関連について、京博ナビゲーターと語り合いました。

「素敵な意味ですね、家族にも伝えたくなりました」「教えてもらった禅語の意味を踏まえて、もう一度作品が見たくなりました」「禅語は難しいと思っていたけれど、実際に体験してみると楽しかったです」などの感想があり、禅の世界を身近に感じていただけました。

episode エピソード “くじ”で出会う禅のことば

「禅―心をかたちに―」でのワークショップで解説担当時の話です。40～50代の一人のご婦人に禅語「喫茶去」の説明を差上げていた時のこと。

「……本心に帰ってみてはいかがでしょうか？」という私の言葉に、それまで真剣に聞かれていた瞳から一筋の涙。「私の今です」と呟かれました。その後「どうされたかなぁ！」と時たま思い出します。 **O.S.**

「日々是好日」。禅のワークショップで40代くらいの女性に「どんな辛い時も、かけがえのない一日ですね」などと解説。「ほんとにそうですね」彼女は少し目を潤ませて、先頃癌の手術を受けたと微笑んだ。

くじで選んだ禅語が彼女の人生に響き、その笑顔と共に私の心にも届いた。来館者との一期一会の対話。京博ナビ6年間の「好日」を忘れない。 **山村 登代子**

ワークショップでのエピソード

プログラム

龍馬さんからお手紙です！

参加者数 8,725 人

特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」（2016年10月15日～11月27日）に合わせて実施しました。坂本龍馬が書いた手紙を、京博ナビゲーターと一緒に読み解くワークショップです。展覧会に出品された手紙のなかから、4名の女性（乙女・お龍・登勢・春猪）に充てた手紙を取り上げ、原寸大の複製で筆遣いを感じていただきながら、その内容を紹介しました。

手紙を読んだ後に、参加者には龍馬へのメッセージやワークショップの感想を書いてもらいました。

「龍馬の優しさあふれる手紙を見たら、心があたたまった」「ユーモアのセンスがある人なんですね」「龍馬さんがもっと好きになった！」など、手紙を通して龍馬の魅力や人柄を感じてもらうことができました。

描いてみよう！墨の線

参加者数 11,508 人

特別展覧会「海北友松」（2017年4月11日～5月21日）に合わせて実施しました。水墨画の線に注目し、実際に描くワークショップです。

最初に京博ナビゲーターから、一筆の線の中に、細い部分と太い部分があること（肥痩がある線）を紹介。そのあと参加者には、友松作品のうち「仙人」と「馬」の絵の一部をなぞって完成させていただきました。

一見簡単に描けそうな線でも、絶妙な力加減が必要です。体験することで友松の技術の高さや墨で描く面白さを実感していただけました。

episode エピソード

描いてみよう！墨の線

「海北友松と斎藤利三（春日局の父）の墓が並んで建っている」というエピソードが載ったパンフレットを読んで来られた方々との出会いは、楽しくうれしい思い出です。

真如堂へのアクセス、お寺のいわれはと質問が続き話が盛り上りました。「吉田山の茂庵で一服して帰ります。素敵な一日になりそうです」がお別れの言葉でした。　松橋 美恵子

プログラム

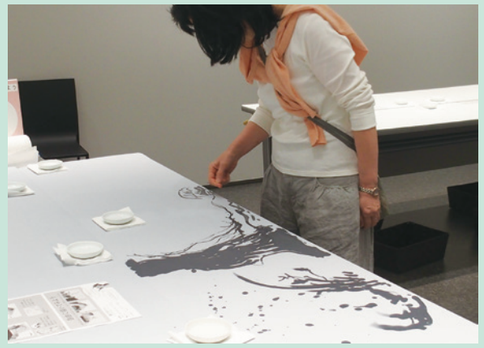
指で描こう！指墨画にチャレンジ

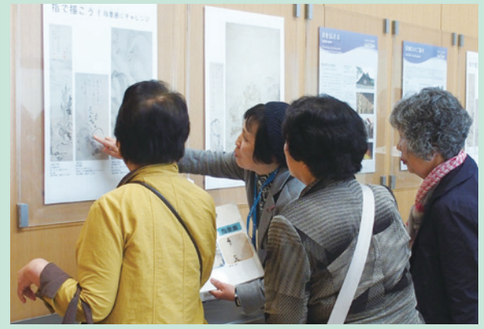
参加者数 5,427 人

特別展「池大雅」（2018年4月7日～5月20日）に合わせて実施しました。大雅の気分になって、指や爪で描く指墨画にチャレンジするワークショップです。

まず京博ナビゲーターが、大雅の絵を見せながら、手のどこを使って、どんなふうに動かして描いたのかを紹介します。その後、大雅作品の「波」と「人物」をなぞって指墨画を体験します。自由に描けるスペースも設け、思い思いの指墨画を描いていただきました。

指墨画は、筆で描くのとは一味違う、揺らぎのある味わい深い線を描くことができます。それぞれの個性や癖が線にあらわれる面白さを体験したり、大雅の技術の高さを実感していただけました。





episode エピソード

指で描こう！指墨画にチャレンジ

それまで指墨画の事を全く知らなくてドキドキなワークショップに、中国で指墨画を習われた男性が来られました。

半切の用紙に独特なリズムで気持ちを途切れさせることなく一気に描かれた様子は素晴らしく、私がステキな指墨画体験をしました。　増田 寿美子

みなさん、上手に描かれるので「素晴らしいですね。」と声をかけていました。中国の方が英語で、「あなたが素晴らしい。一緒に写真を撮ってもいいですか」と声をかけてくださいました。おもてなしの心が伝わった素敵な思い出です。　K.M.

お母さんに連れられてきた小1の男の子。最初は言われたことをしぶしぶやっているだけでしたが、指で描くという不思議な感覚に興味を持ち始め、「これはこう？」と二人の会話もはずみ楽しんでる様子が伝わりました。

体験後もう一度展示室に向かう二人を見てうれしく思いました。　N.M.

お客様とは通常レプリカを前に説明が精一杯の私ですが、池大雅展のワークショップの待ち時間に、1枚の絵を手がかりに一人の老婦人と話し込み、その方が「亡くなった夫が絵が好きでよく一緒に掛け軸を選んだのよね」と懐かしそうに思い出話をしてくださった、ひとときの交流が私にはとても嬉しく、印象に残っています。　M.Y.

ワークショップでのエピソード

プログラム

まぢかで見よう！はじめての刀

参加者数 11,471 人

特別展「京のかたな」（2018 年 9 月 29 日～ 11 月 25 日）に合わせて実施しました。はじめて刀を鑑賞する初心者向けのプログラムです。京博ナビゲーターが刀の見どころの一つである「刃文」と「肌」について紹介し、その後、昭和に制作された本物の刀をガラスケースなしで鑑賞しました。

「刃文」と「肌」は、人間の指紋のように刀によってそれぞれ違い、同じものは一つとしてありません。刀の個性が表れる重要な見どころの一つです。「刃文と肌が何か分かった」「知っていそうで知らなかった」「展示を見る目が変わった」などの感想があり、展示をより楽しんでいただくきっかけになりました。

episode エピソード

まぢかで見よう！はじめての刀

刀剣のワークショップ時に何人かの刀剣女子と思われる方々とお話ししました。その方々は単にゲームキャラクターが好きなだけではなく、かなり勉強されておられまして刀剣に関する知識の深さ、豊富さには正直とても驚き感心いたしました。逆に色々お教え頂き大変勉強になりました。恐るべし刀剣女子の方々でした！ **I.S.**

京のかたな展。巷の刀剣ブームを知らなかった私は、若い女性が押し掛けてくる様子に驚き、これはゲームキャラも押さえておかなくてはと明治古都館に展示されていた等身大パネルの名前を頭にいれてワークショップに臨みました。ゲームキャラの話になると盛り上がるお客さんに喜んでもらえて、うれしかった思い出があります。 **別府 昌美**

京のかたな展が印象に残っています。ワークショップのための研修で学習したことで、それまでみんな同じに見えていた刀にひとつひとつ異なる表情があるとわかって楽しめるようになりました。そのおかげで、ナビゲーターとしてゲストに鑑賞ポイントを一番楽しく伝えられたワークショップになりました。 **小野 千夏**

私にとっての一番は「刀剣展」です。正直、「刀剣」について今まで、大きな関心をもったこともなく、観る機会もなかったのですが、熱気に包まれた会場を見て、この展覧会への来館者の方々の「熱い思い」というものに驚き、感動しました。

私たちナビが担当したワークショップも大盛況。熱く楽しい思い出が蘇ります。 **O.J.**

空気がピンと張りつめた会場。ガラス越しではない本物の刀が目の前に二振。

20 代の女性たちが、解説後息がかからないようマスクをして一人づつライトを手に間近に鑑賞。「わー見えた、板目分かる、すごーい、キレイ」。

終了後「刀文や肌のこと知れたのでまた会いに来ないと」と嬉しい声。『会いに来たい』って素敵な言葉ですね。 **N.T.**

特別展「京のかたな」で多くのとうらぶ女子とお話ができました。明治古都館での刀剣乱舞パネル展では、色々な事を教えてもらいました（逆ナビゲーターです）。自宅に何振りかお持ちのダンディ紳士とも会話が弾み、春から刀の勉強やゲームも始めた甲斐がありました。楽しい時間を共有できました。 **B.F.**

プログラム

一遍さんを探そう！ ～さわって楽しむ絵巻物～

参加者数 3,896 人

特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」（2019 年 4 月 13 日～ 6 月 9 日）に合わせて実施しました。絵巻を繰り広げながら、一遍さんを探し、じっくり鑑賞するワークショップです。

まず京博ナビゲーターが、一遍と「一遍聖絵」について紹介します。その後、実際に絵巻の複製を手に取って鑑賞しました。

ワークショップでは、現在、詞書と絵が分かれて所蔵されているものをオリジナルの姿に復元した、特別な複製絵巻（京都を舞台とする巻 7 の第 2 段と第 3 段）を鑑賞しました。

「一遍聖絵」は、諸国を巡る一遍の事績を表すとともに、当時の人々の暮らしを細やかに描いており、鑑賞者は一遍と共に旅をするような体験ができます。「絵巻を初めて触った」「見るたびに新しい発見がある」「当時の様子が垣間見えて興味深い」など、自分の手で巻き広げる鑑賞スタイルならではの体験をしていただけました。

episode エピソード

一遍さんを探そう！ ～さわって楽しむ絵巻物～

スイスからの参観者への説明で「算」を「passport to the paradise」と言ったら、「算」にお金を払うのかの質問があり。「free」だと答えました。なぜそのような質問をされたのか考えたが、「カトリック教会の免罪符」のことが念頭で、質問されたのかと思い、歴史で習ったことが思い出され、時空を超えた感慨深いものがありました。 **河村 雄良**

良いことをしました。一遍聖絵の最終日、マネジャー役も済んだ時に車椅子の老婦人が来られました。介添の女性が「展示も素晴らしかったので、ワークショップも老婦人にさせたい」との事。受付終了後でしたが、会場に案内（片付け始めていたメンバーには感謝）。介添の方のお話では時宗のお寺の皆様とのこと、喜んで頂き良かったです。 **S.T.**

ワークショップで時宗の檀家だというご夫婦に出会い、一遍上人への熱い思いも聞かせてもらいました。その後、ロビーでそのご夫婦と再会。奥さんのエアー鉦鼓（!?）で踊り念仏を披露してくださいました。今の檀家さんが踊り念仏を踊れるなんて！ 資料にない時宗と檀家さんの関係を学ぶことができた印象的な体験でした。 **M.A.**

参加された女性グループの中に目の見えない方がおられました。始めは様子を窺われているようでしたが、その内「私もやりたい」と一緒に体験されたのです。終わった後、「楽しかった」と笑顔で言ってもらえました。ナビをして良かったと思えた瞬間でした。 **B.F.**

ワークショップに車椅子の御婦人が来られました。車椅子対応は初めてで少々戸惑いましたが、カートを 180 度回転させ足が中に入るように工夫して参加して頂きました。

絵巻物を手に取り描かれている人物や風景を間近にご覧になり、「こんな経験は初めてだ」と大変喜んで帰られたお姿が一番印象深い出来事でした。 **M.M.**

私にとってのナビゲーターは多くのことを学べる出会いの場でした。博物館の先生方、ナビ仲間そして来館者にも多くの事を教えていただきました。学んだ事を来館者にお伝えし喜んで貰えた事。「時宗の寺を訪ねて」というツアーで、ワークショップでお話しした方と偶然再会できた事。誰かと何かを共有できる体験は得がたい喜びでした。 **I.S.**

解説を担当していたところ、30 代と思しき男性が熱心に聞いてくださいました。何かしら思うところがあったようで「ぜひ母にも聞いて欲しい」と中座され、別に鑑賞されていたお母様と一緒に戻られました。お二人のお気持ちに添えるような話ができたことを嬉しく思いました。 **A.K.**

「時宗展」の時のこと、地味で馴染みのないお坊さんの世界と私は最初とらえていました。いざワークショップで、来館者に絵巻の複製で説明をすると、目がパッと輝き、作品の素晴らしさに気付き、興味を持たれたことが伝わってきました。私はほんとうに感動しました。ナビ活動をして良かったと思いました。 **上田 静代**

ワークショップでのエピソード

プログラム

顔を描こう！
～和歌で感じる歌仙のこころ～

参加者数 5,662 人

特別展「流転 100 年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」（2019 年 10 月 12 日～ 11 月 24 日）に合わせて実施しました。和歌をふまえて歌仙の顔を描くワークショップです。

まず京博ナビゲーターが「佐竹本三十六歌仙絵」について紹介します。この作品は、和歌の意味に寄り添って歌仙ひとりひとりの表情や姿勢が描き分けられており、内面や心情さえも感じさせる表現が見どころのひとつです。 くじを引き、「素性法師」「藤原敏行」「小大君」の３人の歌仙のうち、いずれかの歌仙と出会います。

和歌の紹介を聞いたあと、その意味を考えながら、くじで出会った歌仙の絵に顔を描き込み、色も塗って、自分だけの歌仙絵を完成させました。

「歌仙絵の特徴がよく分かった」「歌仙の顔をしみじみ観察できた」「お姫さまを当てたかったがお坊さんを引いて、図らずも益田鈍翁の気分を味わった」などの感想があり、作品に一歩近づいて楽しんでいただけました。

episode
エピソード
顔を描こう！
～和歌で感じる
歌仙のこころ～

このワークショップは、顔の表情を描き、着物の色を塗るものでした。印象的だったのが海外からの男性３人組です。いわゆるおじさん達が色鉛筆を片手に大爆笑で「俺が一番上手だ」と騒いでいるのです。私共ナビにまで「誰が一番だ？」と問う始末。絵画は国境を超える!!と思った瞬間でした。

O.S.

説明係で外国人家族に英文版を読み上げていましたが、2カ所単語が読めませんでした。そのご夫婦がその都度、声を揃えて助けてくれました。私が自分の拙さに恐縮すると、彼等も英語のネイティブスピーカーでないと笑顔を返してくれました。素敵なフランス人でした。

F.M.

「やっぱり来て良かったわ！」ワークショップにいらした女性は日曜美術館の放映後思い立ち、栃木からお一人で日帰りでのご来館でした。私の拙い解説を楽しんで下さり優しいお顔立ちの歌仙絵を仕上げられて「帰りの時間ギリギリまで京博に居ます」と足早に展示室に戻られました。軽やかな後姿にお福分けを頂いたひとときでした。

T.H.

新型コロナウイルスの影響

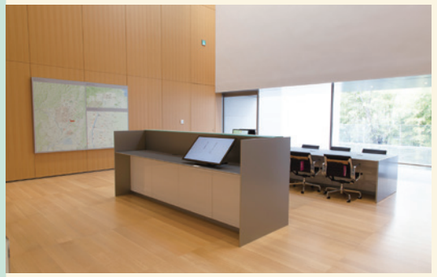
第２期京博ナビゲーターの最後の活動として、西国三十三所草創 1300 年記念 特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」※でのワークショップを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ながら中止となりました。

予定していたワークショップは、「yes/no チャート」を用いて、代表的な４尊の観音さまの中から、自分の好きな姿の観音さまを見つけ、そのスタンプでしおりを作る、という内容でした。京博ナビゲーターとともに研修も行い、準備を進めていましたが、「さわる」「はなす」を活動の中心として計画していたため、十分な感染症対策が実施できないと判断し、中止しました。

展覧会の会期中は、ワークショップに代わって「おたのしみコーナー」として、「yes/no チャート」のパネル掲示と、解説プリント・七観音ぬりえの配布を行いました。

※当初予定の会期　2020 年 4 月 11 日～ 5 月 31 日
変更後の会期　2020 年 7 月 23 日～ 9 月 13 日

レファレンス・コーナーでのエピソード



レファレンス・コーナー

京博ナビゲーターは、レファレンス・コーナーで、来館者の「調べる」のお手伝いをします。「調べ方を知っていれば、次に新しい疑問がわいた時も、情報を得るための手掛かりになる」という考えのもと、参考図書や検索用のパソコンで、来館者とともに調べ物をします。

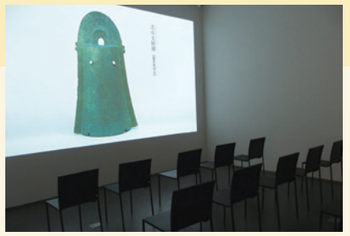
参考図書

図書閲覧テーブル

平成知新館２階のレファレンス・コーナーには、参考図書やマップ、検索用パソコン、デジタル絵巻があり、隣接するミュージアム・ラボラトリーでは収蔵品に関する映像を上映しています。

文化財マップ

デジタル絵巻



ミュージアム・ラボラトリーでの番組上映

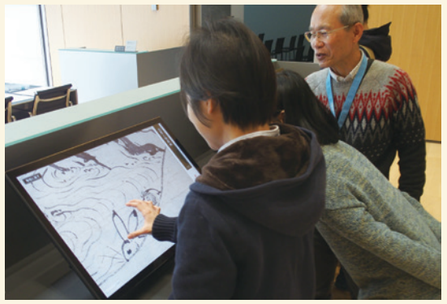
episode
エピソード
レファレンス・
コーナー

通常の当番を２回経験し少し慣れた頃。10 月３日（火）にレファレンス・コーナー担当から活動開始。10 時過ぎ遠方から来られた一人の女性客に「英一蝶の資料ありますか」と尋ねられ、トイレに行ってらっしゃる間に江戸中期狩野派の知識を基に必死で資料を３冊探し出しました。レファのことを解ってないと探せないことを思い知った国宝展初日でした。

三浦 基子

参考図書コーナーで、初老の方が「大英博物館に行ってきましたよ」と専門的な話をぺらぺらと話されます。「マグナカルタ」という言葉だけ耳に残りました。大英博物館と聞いて「熊楠の遺された何かを見られましたか？」とお尋ねしました。帰宅後、神坂次郎のサイン入り『南方熊楠の生涯』を書棚から探してきました。

星野 隆



とっておきのエピソード　博物館での出会い

ここでは、ミュージアム・カートやワークショップでの活動に収まりきらなかったエピソードをご紹介します。どのエピソードも、博物館で生まれた、忘れがたい「人と人との出会い」を物語っています。

「ようやくここに来れた。時間がかかった」とポツリとおっしゃった方がいた。私も退職後、制約のない自由さはあるものの、社会とは離れていく様なちぐはぐさを感じながら活動をしていた。説明ににっこりと頷いて受け入れていただいた時の喜びもひとしおだが、自分と同じように立ち上がろうとする人との出会いは、忘れがたく心に残っている。　**K.T.**

コロナのために中途半端に終わり残念です。「次回第３火曜日に絶対来ます。いっぱい教えて下さい」と言って下さった留学生が気になっています。語学に弱い私のボディーランゲージなので、説明がどれだけ理解戴けたかどうか……心配！でもあの青年はきっと京博に度々来られ勉強を続けてくれていることと思っています。
横川 紀子

「花の第３金曜日」は、さっちゃんが考えたLINEグループ名。昨年秋「体調のいい時はLINE読みますね」と言い入院した彼女に、私達は様々な事柄をLINEした。

大好きな観音様の春の特別展を心待ちにし、病気と力の限り対峙した彼女。今思い出すのは、来館者と一緒に絵巻を「クルクルクル」と言いながら巻いていた楽しげな姿だ。　**S.Y.**

「一ハオ」ナビを始めて６年。インバウンドの増加と共に、京博の来館者も中国・台湾の方が増えました。私の拙い中国語が役に立ったと実感できた幸せな時間でした。2020年１月、春節の休暇で来日された香港のご家族とお話したのが最後でした。小学生の男の子は日本文化が大好きとのこと。今はどうされているのやら。「再見」　**走井 秀子**

2018年夏の「謎ときにチャレンジ！」でのこと。父子連れのお客様と３階展示品の話題で盛り上がり、立ち去りがたげにしていらした坊ちゃんに、巨大ベレムナイト（ナビ仲間Ｍ氏の受け売り）をご紹介。殊のほか喜んでくださいまして「再度来館して化石探索します！」と。研究者誕生の瞬間に遭遇したかのようなひとときでした。　**小生 富士枝**

名古屋から参加の私は、活動後京都の四季折々の行事を満喫していました。千本釈迦堂節分会豆まきを雨の中待つ間話し込み、京博の大ファンでワークショップが毎回楽しくて自分も京博ナビになって来館者をもてなしたいと言っていたお嬢さん。どうしているだろう。

一日も早く京博ナビ活動が、再開されますように。　**丹羽 慶子**

episode
エピソード
教育室メンバーから

パワーみなぎるナビさんたち。同じ活動日の仲間たちと別日に集まり、やれ○○寺をお参りした、やれ××祭を体験した、と悠々自適で楽しそう。「いいなぁ私もそんな生活してみたい」とこぼしたところ、「何いってるのぉ私たちもこないだまで必死で働いたのよ、がんばりなさい」とのお言葉。なるほど。人生の先輩たちが多く、心づよいかぎりです。

■ **教育室長　永島明子**
活動全体の監督を担当

「募集説明会で、生まれて初めて京博に来ました！」。面談選考でのセリフ。堂々と言い切る姿に驚きつつも、「人と接するボランティア」という入口を作ったことで、博物館や文化財に興味を持つ人が一人、確実に増えたことを嬉しく思いました。無事に選考を通過され、文化財の面白さを伝える側になっていただきました。

■ **教育室主任研究員　水谷亜希**
活動全体の調整・カート教材の企画を主に担当

一遍聖絵の研修でのこと。事前練習したのですが、ナビさんの前で絵巻を巻いたら斜めに……「巻けないとこのようにタケノコになります」とお話しました。その後ナビさんから「お客さんがうまく巻けずにいた時、タケノコの話をしたら、『確かにタケノコみたいね～』と盛り上がりました！」と。やり取りを想像して、ほっこり。

■ **教育室事務補佐員 河合優香**
シフト管理など運営調整を主に担当

研修の日、ナビさんに「刀に興味を持てない」とバッサリ。実は私も同じでしたとお答えしました。初めて担当したかたな展のワークショップでは、門外漢ながら勉強したのを覚えています。展覧会終了後には、同じナビさんに「活動を通して面白さが分かった」と仰って頂き、ひとと文化財を繋ぐ体験の楽しさを改めて感じました。

■ **教育室事務補佐員 湯本美紀**
ワークショップの企画・配布物作成を主に担当

京博ナビゲーター活動記録
2014（平成26）～2020（令和2）年

発行日　2021年2月26日
編集・発行　京都国立博物館

デザイン　西村 映美（株式会社フルーツドロップス）
印　刷　株式会社 Switch.tiff

・本書の「エピソード」の執筆は第２期京博ナビゲーターが担当した。ナビゲーターのイニシャル表記は、姓・名の順である。
・ワークショップの紹介文は、作花麻帆・門前斐紀・湯本美紀（京都国立博物館 元・現事務補佐員）が執筆したものをもとに、水谷亜希（京都国立博物館 主任研究員）が編集を行った。
・その他の部分の執筆・全体の編集は、教育室の協力を得て水谷が担当した。
・p.12の特集展示「赤ってじつはどんな色？」のカート教材の企画は、安部真里奈（京都国立博物館 元研究員）が担当した。

下記の写真は京都国立博物館の岡田愛が撮影した。
p.1 平成知新館外観、p.4 流水文銅鐸（複製）、銅剣・銅戈（複製）、三角縁神獣鏡（復元鋳造）
p.6 衣文模型、木材見本、p.9 蒔絵と螺鈿の工程見本、p12. 刀の柄
p19 レファレンス・コーナー、 図書閲覧テーブル、文化財マップ、デジタル絵巻

本書は科学研究費補助金による調査研究「若手研究（Ｂ）対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究」（JSPS KAKENHI Grant Number JP16K16345）による成果の一部である。